

# 可燃性廃棄物の追加火災対策の進捗状況について

2017年7月25日



---

東京電力ホールディングス株式会社

# 1. 伐採木屋外集積エリアの火災対策の状況

特定原子力施設放射性廃棄物規制検討会（第4回会合）資料4 - 2 抜粋

対策			対応状況
火災発生防止	自然発生する火災	自然発火	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 積載高さを5m未満に制限（通気性確保）</li> <li>● 積み上げた山（幹を除く）の内部温度を監視</li> </ul>
		落雷	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横倒しになっている伐採木に落雷する可能性が極めて小さいため、対応不要と判断</li> </ul>
	人為的な火災	もらい火	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伐採木屋外集積エリア近辺の5・6号西側の道路土手にて火災事例があるため、<b>防火帯を設置中</b></li> </ul>
早期検知			<ul style="list-style-type: none"> <li>● カメラによる火災感知・発報機能を有する<b>自動火災監視システムを設置予定</b></li> </ul>
延焼防止			（もらい火と同じ）
消火活動			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自衛消防隊体制を整備</li> <li>● 初期消火用消火器、防火水槽（構内共通）、防火水タンク（一時保管エリア専用）を設置</li> </ul>

## 2. スケジュール

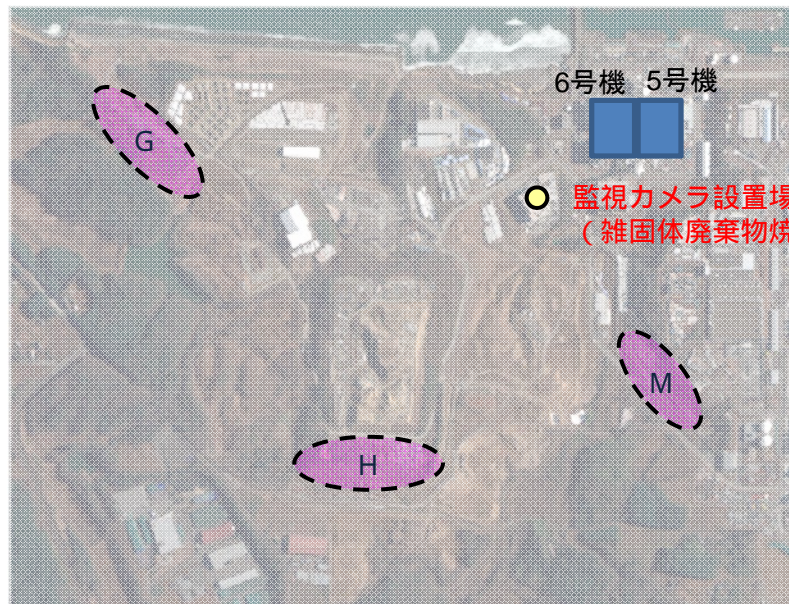
- ◆ 屋外火災監視カメラは設置完了、現在運用中(今年度は運用改善期間)
- ◆ 一時保管エリアH、Mの防火帯設置完了
- ◆ 新設エリア(一時保管エリアG)についても、他エリアと同じ対策を実施済み

実施項目		2016年度		2017年度	
		上期	下期	上期	下期
3. 屋外火災監視カメラ設置		仕様検討			
			設計・製作		
			据付・試験		
				運用開始	
防火帯設置	4. 一時保管エリアH		2月に設置完了		
	5. 一時保管エリアM			6月に設置完了	
6. 新設エリアの火災対策 (一時保管エリアG) 特定原子力施設放射性廃棄物規制検討会 第5回会合以降追加				7月に設置完了(防火水槽の追加)	
		エリア造成時(運用開始前)に防火帯・消火器等設置済			

### 3. (1) 屋外火災監視カメラの設置

#### 2017年4月より監視システム運用開始

☞ : 伐採木一時保管エリア



提供: ©2016 DigitalGlobe, Inc., NTT DATA Corporation

伐採木一時保管エリアの配置図

#### 【火災検知】

- 監視カメラにより、伐採木一時保管エリア全体を自動で監視・検知
- 監視範囲で、約1m×約2mの炎及び煙を検知

#### 【火災通報】

- 所内5箇所※に監視PCを設置
- 火災を検知した位置を監視PCにて確認し、火災であれば消火対応実施

#### 【監視方法】

- 監視カメラ2台、補助カメラ2台の計4台で敷地北側を監視
- 監視カメラで火災を検知した場合、監視PCにて警報解除するまで現場の監視を継続。(警報解除後は、補助カメラでの火災現場の確認が可能)

※「免震重要棟 緊急時対策所」、「免震重要棟 1～4号当直室」、「5・6号機 中央操作室」、「新事務本館 緊急時対策室」、「新事務本館 東電フュエル事務所」の5箇所

### 3. (2) 屋外火災監視カメラの監視状況

- 雑固体廃棄物焼却設備屋上に設置したカメラの画像から炎・煙を検知
- 監視状況は、新事務本館 緊急時対策室等に設置した監視PCで確認可能

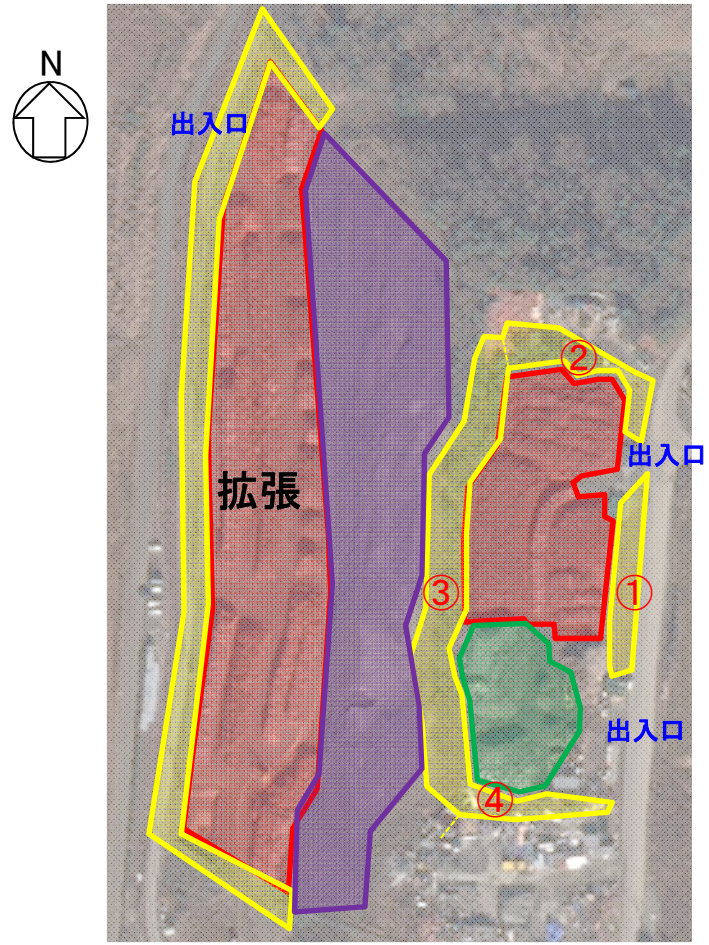
#### 監視PC画像



# 4. 防火帯設置状況(一時保管エリアH)

- : 伐採木(幹、根)     : 木材
- : 防火帯     : 傾斜地

【もらい火対策(延焼防止)】  
伐採・草刈後、碎石敷設を実施



提供: ©2016 DigitalGlobe, Inc., NTT DATA Corporation  
伐採木一時保管エリアHの配置図



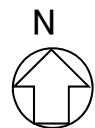
③④は、傾斜地又は人・重機等の立入が出来ないため碎石敷設せず。

## 【拡張エリアの火災対策】

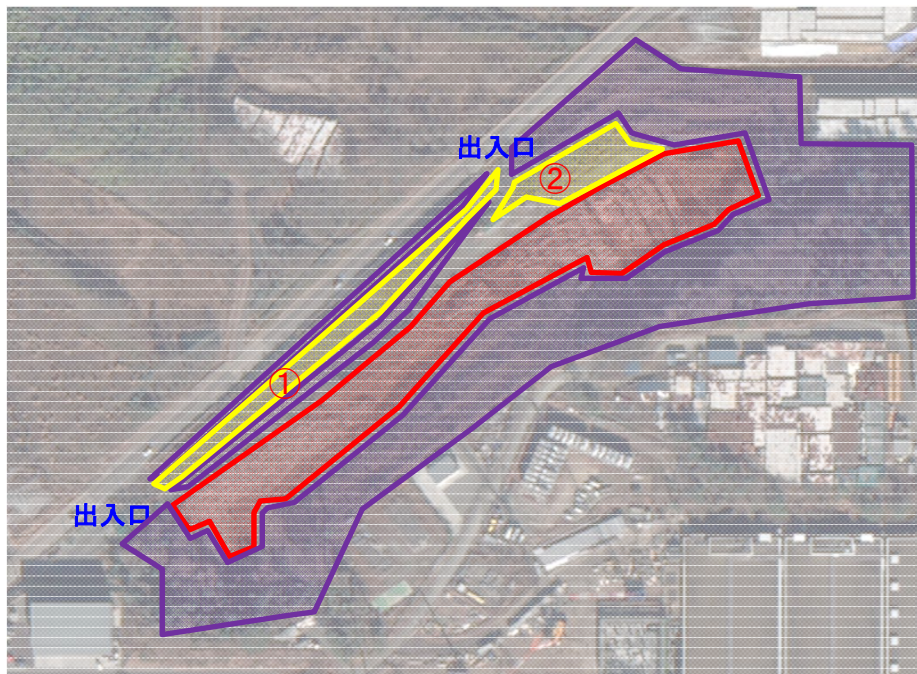
- 既存の一時保管エリアと同様の管理を実施
- ・積載高さを5m未満に制限
  - ・温度計設置による温度監視
  - ・巡視
  - ・消火器、防火帯設置



# 5. 防火帯設置状況(一時保管エリアM)



- : 伐採木(幹、根)
- : 防火帯
- : 傾斜地



提供: ©2016 DigitalGlobe, Inc., NTT DATA Corporation

伐採木一時保管エリアMの配置図

## 【もらい火対策(延焼防止)】

伐採・草刈後、碎石敷設を実施

① 碎石敷設前



碎石敷設後



② 碎石敷設前







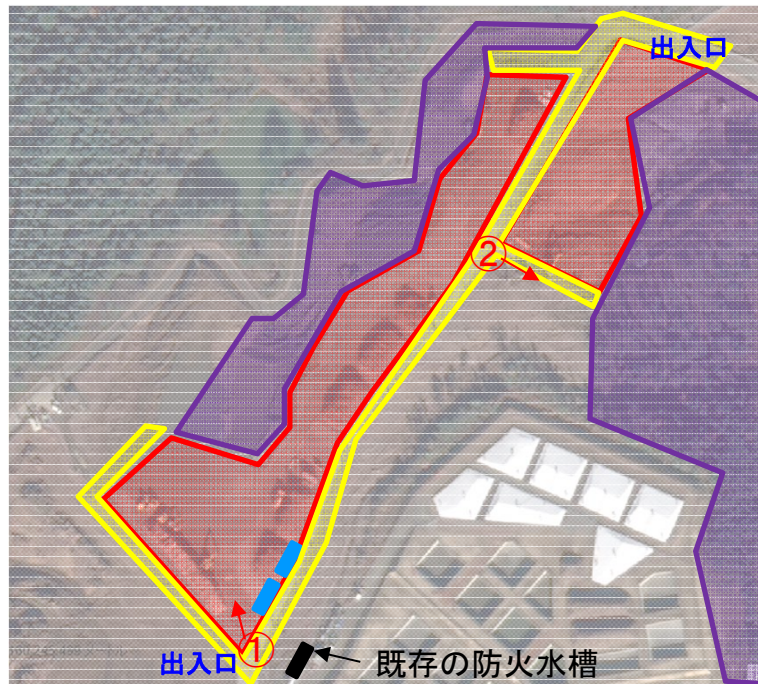
碎石敷設後



傾斜地については、碎石敷設せず

# 6. 新設エリアの火災対策状況(一時保管エリアG)

- N
-  : 伐採木(幹、根)
  -  : 防火帯
  -  : 傾斜地
  -  : 追加分の防火水槽(40m<sup>3</sup>タンク)



提供: ©2016 DigitalGlobe, Inc., NTT DATA Corporation

伐採木一時保管エリアGの配置図

## 【火災対策】

既存の一時保管エリアと同様の管理を実施

- ・積載高さを5m未満に制限
- ・温度計設置による温度監視
- ・巡視
- ・消火器、防火帯設置



## 【追加火災対策】

更なる消火対策(消防水利の確保)として、既存の防火水槽1基の他に2基を設置済

